

## 目立つ色を組み合わせた安全服の設計

青葉学園短大

芦澤昌子

目的 子供や視覚障害者を交通事故から守る為には、車の運転車が歩行者がいる事を認識しやすい衣服、つまり「目立つ」衣服を身につけている事が重要な条件となる。前報では、色の目立ちは照度レベルによって大きく変わる事、さらに背景の影響も大きい事を報告した。今回は全照度レベルでよく目立つために、明るいところで目立つ色と暗いところで目立つ色の2色を用いて安全服を設計する事とし、どの色の組み合わせがよく目立つかを目立ちインデックスCIを用いて検討した。これは視覚順応状態を代表する暗所視 薄明視 明所視に対応する0.1, 10, 1000ルクスの目立ち得点の総和と定義しこの得点の高い組み合わせがよく目立つ組み合わせと考えた。

方法 ①前報で用いた12色票を用いて、各照度レベルの色の目立ち空間における距離でCI値を計算した。その高いものがよく目立つわけであるが、視覚特性の劣化する夜間、車の運転者が人の存在を知る為には、人の形が背景から浮かび出て見える事が重要であるので、2色配色の外側にシルエットを出させるような色を用いる事を条件として良い組合せを選定した。②CIインデックスの妥当性確認の為の実験を行った。①で選定した組合せの中から12組合せを選定し、照度レベルを0.1, 10, 1000ルクスと変えて2色配色の目立ち実験を行った。背景はN2, 被験者は女子短大生15名である。

結果 暗い夜に人の形を浮かび出させる為の良い組合せは、外側に7B, 8B色, 10色の青葉を配色する事が必要で、最も良い組合せは外8B色—内8R(CI=255)を用いたものである。②CI理論値と実験値の相関は0.97と高く、CIの妥当性が確認できた。